

心理学基礎 副題：メディアの読み方、使い方

[講義] 第2学年 前期 選択 1単位

《担当者名》加藤正巳 (非常勤講師 kato-shinri@hoku-iryu-u.ac.jp)

【概要】

文章の読み、書きに関するリテラシーを高めるために開講された科目である。新聞などのメディアの読み方を身につけ、日頃から時事問題に関心を寄せる生活習慣を確立する。また、論文や論説文などの論理的な文章を論理的に読解(インプット)し、自分の考え表現(アウトプット)する訓練を行う。論述試験を含む公務員試験や大学院受験を目指す学生にふさわしい内容になるだろう。

【学修目標】

新聞などのメディア情報の読み方、討議や論述によるアウトプットの仕方を身につける。
論説文を題材にして読解力、要約力、自分の考えを表現する力を高める。

【学修内容】

Table with 4 columns: 回, テーマ, 授業内容および学修課題, 担当者. It lists 8 sessions covering topics like information quality, news reading, media bias, and critical thinking.

【授業実施形態】

面接授業
授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート80%、授業への取り組み態度20%で評価する。レポートはコメントをつけて返却するので復習に活用すること。

【教科書】

使用しない。その都度プリントを用意する。

【参考書】

文藝春秋オピニオン2024年の論点100(2023)
北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞

【学修の準備】

授業期間中に新聞を学生自身が購入し読むように指示される。(1回予定)
論述や討議についてのレポート課題が出る。
1回あたり予習時間：80分程度、1回あたり復習時間：80分程度

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

新聞社、広告代理店、プロサッカーチームの運営会社、金融機関など

【実務経験を活かした教育内容】

新聞社及び金融機関などにおいて得た社会人経験を反映させた時事教育も行う。